

1 はじめに

熊本市中学校体育研究会では、研究テーマを『自ら運動の喜びや楽しさを求め生涯にわたり健やかな心と体をはぐくむ体育学習の在り方』とし、県中体研と連携を図りながら授業実践を行ってきた。今年度は、次年度から始まる新学習指導要領を視野に入れた教育課程の編成や実施上の課題、さらには新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を視野に入れた学習指導の改善と工夫に取り組んだ。毎年行われていた「学びわくわく中学校授業研究会」（熊本市教育委員会・各教科研究会主催）は中止となったため、学習指導案から学習構想案への移行の準備や評価基準の作成等を進めてきた。さらには、保健の授業等では、「感染症の予防」として感染予防策を出し合い、実践する授業実践を行った。県の夏期実技研修会では、東京女子体育大学の末永裕介講師を招聘して授業づくりの実践を行う予定だったが、中止になったため、次年度の学体研の授業づくりについてご協力いただくこととなった。

2 組織

- 会長 金森 勲（城西）
副会長 諏訪園 勉（西山） 海津 英孝（竜南） 元田晋也（湖東） 古賀 義久（東町）
清藤 誠也（清水） 瑞穂 達也（東部）
顧問 吉田 誠指導主事（熊本市教育センター）
理事長 吉田明日香（桜木）
副理事長 船津 一真（植木北） 松本有美子（下益城城南） 中山 瑞基（力合）
長浦 卓也（出水南）

3 研究テーマ

自ら運動の喜びや楽しさを求め生涯にわたり健やかな心と体をはぐくむ保健・体育学習の在り方
—学びを深めながら運動嫌いをなくす授業実践を目指して—

4 研究の概要

(1) 研究の方法

- ・教育課程研究協議会での実践発表への参加→中止
- ・学びわくわく中学校授業研究会の授業研究・準備・運営・参加・まとめ→中止
- ・熊本県学校体育研究発表大会への参加→中止
- ・評価基準の作成
- ・次年度の学体研に向けた準備
- ・休校中における体力の保持増進に向けた課題設定の仕方の研究

(2) 研究の柱「学習内容を明確にした指導と評価の一体化」

- 研究の視点
- 視点1 「新学習指導要領に対応した具体の評価規準」の検証
 - 視点2 基礎・基本の習得→活用力育成→自ら学び考える力の育成
 - 視点3 主体的・対話的で深い学びを重視した取組
 - 視点4 健康の保持増進と体力の向上

熊本市授業づくり5つの視点

- 視点1 本時のねらいに迫るめあてがある
- 視点2 授業に見通しと振り返りがある
- 視点3 本時のねらいに迫る子どもの主体的活動がある
- 視点4 学習意欲を高め、学習内容を理解させる工夫がある
- 視点5 子どもを認め、生かす場面がある

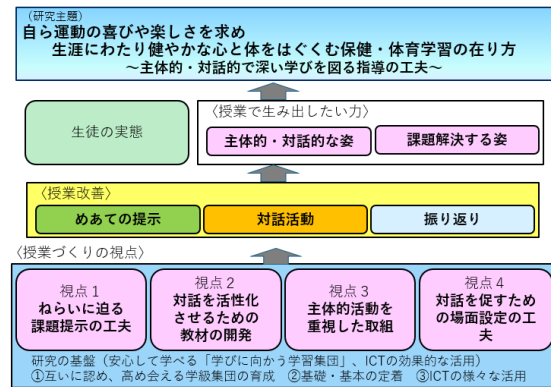
5 研究の実際

○評価基準の作成

中学校保健体育科における「内容のまとまりごとの評価規程（例）」		第1学年及び第2学年【Gダンス】	
学年	1 体育分野 第1学年及び第2学年の目標と評価の観点及びその範囲	学年名	Gダンス
目的	(1) 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするための、運動の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間考えたことを他者に伝える力を養う。 (3) 運動における競争や協力の経験を積んで、公正に取り組み、互いに協力する、自己の役割を果たす。一人一人の違いを認めようとするなどの態度を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の意欲を尽くして運動をする態度を養う。	学年の目標	(1) 感じ覚めて踊ったり、みんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの特性や音楽、表現の仕方、その運動に関連して高まる体力なども理解するとともに、イメージを捉えた表現や踊りを交流することができるようにする。 (2) 連続などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを仲間へ伝えることができるようにする。 (3) ダンスに積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとするなど、交流などの話し合いに参加しようとするなど、健康・安全に気を配ることができるようにする。
評価	知識・技能 運動の特性や楽しさ、体の伸びや呼吸、呼吸的思考力、必死に練習することによって高まる体力、健康・安全に留意すること、健康・安全に留意して学習に積極的に取り組むこと。	思考・判断・表現 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、必死に練習、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組むこと。	主体的に学習に取り組む態度 ダンスに積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとするなど、交流などの話し合いに参加しようとするなど、一人一人の違いに応じた表現や協力を認めようとするなどを実践したり、変化のあるまとまりの表現にししたりして踊ることが出来る。 フォークダンスでは、日本の民謡や外国の踊りから、それらの踊り方の特徴を捉え、音楽に合わせて特徴的なステップや動きで踊ることが出来る。 現代的なリズムのダンスで
学年	1 体育分野 第3学年の目標と評価の観点及びその範囲	学年の評価規程	
目的	(1) 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにするための、運動の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 運動についての自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3) 運動における競争や協力の経験を積んで、公正に取り組み、互いに協力する、自		

○令和3年度に向けた研究の構想

研究の構想



○休校中の遠隔授業、ZOOMによる体づくり運動実践



休校中の課題（2年体育）「体の動きを高める運動プログラムをつくろう！」												
年	組	名前	1学期の運動プログラムをみてみよう！				2学期の運動プログラムをみてみよう！				振り返り	
※1学期の運動プログラムをみて、1学期の運動プログラムをみてみよう！ ※2学期の運動プログラムをみて、2学期の運動プログラムをみてみよう！												
1学期の運動プログラム			1.00	2.00	3.00	4.00	5.00	6.00	7.00	8.00	9.00	1.00
2学期の運動プログラム			1.00	2.00	3.00	4.00	5.00	6.00	7.00	8.00	9.00	1.00
振り返り			1		2		3		4		5	
振り返り			3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
振り返り			13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
振り返り			23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
※振り返りシート、授業を振り返るためのよう、運動の必要事項を記入していただくこと。												

6 まとめ

本年度は、次年度に迫ってきた熊本県学校体育研究発表大会の授業に向けて授業者、単元の決定を行い、体育領域・保健領域の授業実践を行ってきた。また、新型コロナウイルス感染拡大防止による休校中の家庭での課題作りや情報共有などを進め、学校が再開してからは、ソーシャルディスタンスを保ちながら行うことのできる単元ごとの授業づくりの工夫を行ってきた。さらに、11月に熊本市で一斉に導入されたタブレット端末を活用なども進めてきた。これまでの取組から学習内容の明確化や3年間を見通した授業づくりと熊本市中学校体育研究会の「4つの視点」や「熊本市授業づくり5つの視点」が定着し、内容も充実してきている。

しかし、感染予防のために会合がなかなか出来ず、情報共有がしっかりできなかった面もある。

今後は、しっかりと情報を共有しながら、更に本会の先生方の資質向上と指導力を磨き、県中体研と連携を図っていききたい。また、令和3年度に迫った県学体研発表に向け、新学習指導要領を見据えた授業展開の研究やICTの活用を取り入れた授業展開、体育好きを増やす取り組みなどの研究を進め、熊本市の体育研究を推進していききたい。